


テーマ別分科会 3

東京
ホームタウン
大学
2023

東京ホームタウン大学院 東京のまちで 自分らしい活動を立ち上げる！

- ・ 池田 明枝さん
- ・ 山口 亮さん
- ・ 野口 卓也さん（落合・中井社会人大学院）

司会：認定NPO法人サービスグラント 嵯峨生馬

 16:00 開始

落合中井社会人大学院

“知は生活の中にある”



シンボルはフクロウ（娘作成）



運営団体と代表者のご説明

■ 運営団体（新宿区登録任意団体）

・ LSSC研究会（Local Small Second Career）

・ 代表者 野口卓也（五の坂の住民・3世代マスオさん）

■ 会の目的

人それぞれが必ずもっている
“ちょっとした知識のお裾分け”を通じた
新しい形の地域のつながりをつくること

「〇〇のことなら誰誰さんに聞いてみよう！」



近所に人とのつながりがある＝“幸せな人生だと思いませんか”

■スケジュール、開催予定

- ・年間10回予定（だいたい1.5ヶ月に一度開催目標）
- ・一回120分（1コマ50分×2） 最終日曜日に落合第二地域センターが基本

■会費：300円

※会場費用と講師への謝礼、資料印刷、チラシ代に使わせて頂きます。

■条件

- ・原則、落合中井エリアに住む人

「一年に最低一度自分の講義をすること」

- ・クラスの内容は、

**「小学5年生（10歳）にもわかるように、
ちょっとだけ生活に役立つ知識」**
(夕飯の家族会話レベル^^)

活動例



活動例





落合中井 災害・緊急時 ウォークラリー



歩いて学ぶみんなの安全！
いざというときの「場所」をご存知でしょうか？



5月14日 **土** 9:00集合

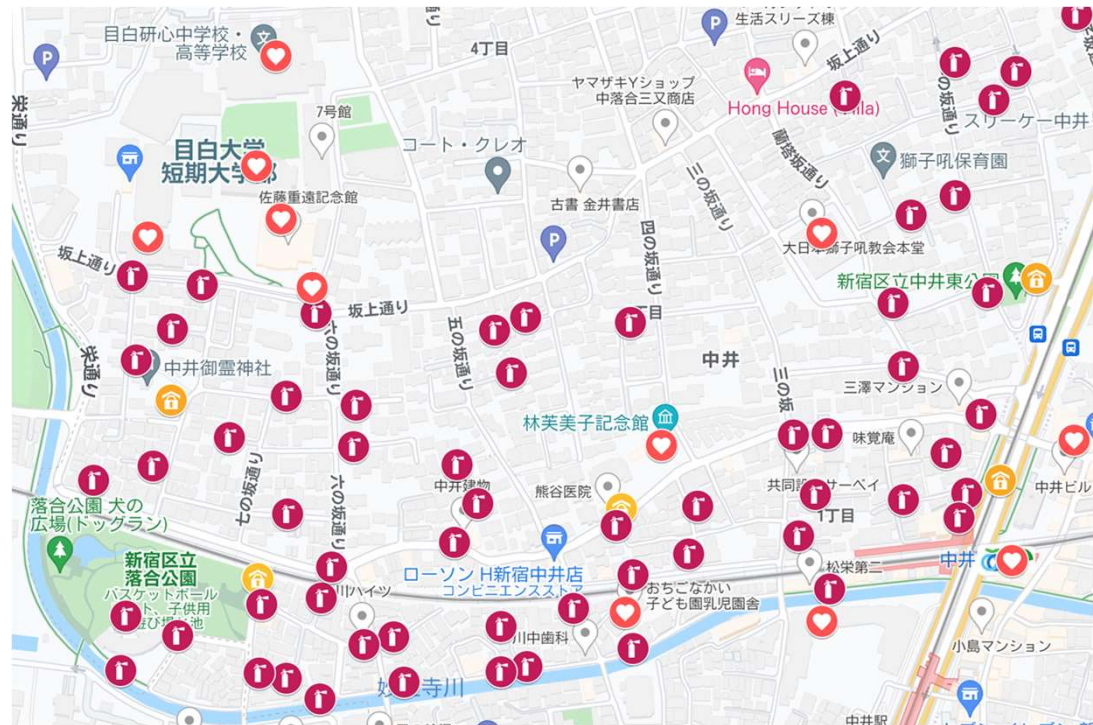
落合公園に集合し、
MAPをお渡ししますので、各自それぞれスタート！
* 参加費100円 (MAP1枚) 9時15分まで待ちます

落合・中井社会人大学院

詳細およびお申込みはホームページをご覧ください。
<https://ochiainakai-daiqakuin.jimdosite.com/>



活動告知 「歩いて地域防災を学ぶ」



活動例



活動例



活動例



活動例



■目白大学様とのコラボ

活動例 「SDGsプロジェクト」



活動例
「夏のスイカ割り
@御霊神社」



活動例

クリアソン新宿コラボクラス





活動例
西落合リサイクル工場。
大人の社会科見学



活動例



プロギングジヤパン@落合中井初開催



外国人ツアー
中井散歩プロジェクト





未来への投資
子供たちへの農業体験活動



落合中井社会人大学院の役割（規約より）

（目的）

第3条 この会は、地域の活性化、人との新たな繋がりを創出し、日本文化が元来保有していた地域相互補助、助けあいの精神の中で人の幸せを追求することを目的とする。（人の幸せとは人とのつながりに他ならず、人生は後半戦が最も充実すべきである）

（非営利活動の種類）

第4条 この会は、第3条の目的を達成するために、次に掲げる種類の非営利活動を行う。

- （1）自分のできることを地元地域に普及を図る活動
- （2）そのそれぞれの活動、技術を地域の困っている人に届ける活動：
落合・中井社会人大学院の運営
- （3）地域商店街や商工会などを通じ、地域の経済活性を図る活動

- （4）有事（天災や災害など）の際、お互いが助け合うコミュニティ作り
- （5）既存地域活動のお手伝いに参加、普及する活動
（お祭り、町会、PTA活動）

■次回のお知らせ！

「聞こえないって？聴覚障害を学ぼう」

～聴覚障害について、様々なコミュニケーション方法、手話についてなど～


■日程

- ・ 3月5日（日） 15時00分から17時00分
（地域センターは15時15分から）

■場所

- ・ 落合第二地域センター大会議室





シニア層のLINEコミュニティ の可能性

～気軽に参加できる居場所的空間『オープンチャット』～

東京ホームタウン大学院
LINEコミュニティ研究チーム

目次

1. プロジェクトの背景
2. 70代 女性 Aさんの声
3. オープンチャットの実例調査・分析
4. まとめ

—

1.プロジェクトの背景

プロジェクトを立ち上げた背景と想い

課題

1. 超高齢者社会では深刻な孤独・孤立感、孤独死問題に直面
2. コロナ禍で高齢者が繋がる居場所（コミュニティ）減少傾向

どこからでも、ゆるっと繋がることができ、
気軽に参加できるSNSコミュニティがあったらいいな



LINEコミュニティの可能性に着目

LINEのオープンチャットとは

- LINEの友だちになっていなくてもトークをしたり、情報をキャッチできるサービス
- 興味関心事や日常生活に密着した話題について、幅広い場面でコミュニケーションを楽しめる*

*引用：LINEみんなの使い方ガイド オープンチャットを利用する

LINEのオープンチャットとLINEグループの違い

	LINE オープンチャット	LINE グループ
ユーザープロフィール	匿名（自由）	LINEのプロフィールに設定した名前
管理者	いる	いない
メッセージ履歴	過去をさかのぼって閲覧可能	参加前のルームのやりとり閲覧不可
参加方法	誰でも参加可能（承認制もある）	本人の承諾が必要
参加人数	最大 5,000人	最大 500人

オープンチャットに着目した理由と仮説

着目した理由

- 1 管理者がいるので安心してトークを楽しめる
- 2 匿名だからこそ気軽にトークに参加・退出できる



仮説

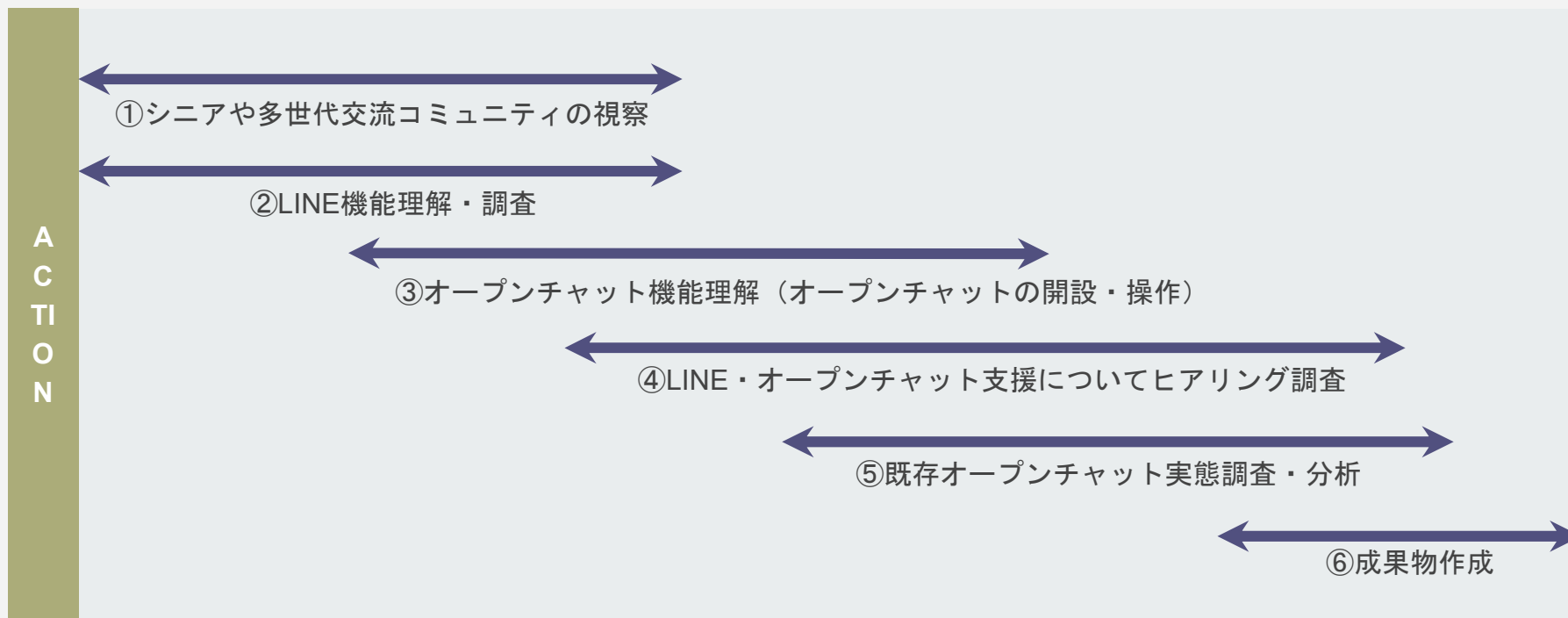
- 1 バーチャルコミュニティとして機能するのではないか
- 2 オープンチャットが社会的孤立を防ぐ役割を果たすのではないか



オープンチャット
トークルーム例（研究チーム作成）

プロジェクトの進め方

以下のステップでLINEコミュニティの可能性を調査



—

2. 70代 女性 Aさんの声

ヒアリング結果：LINE利用のある70代シニア女性

プロフィール

- 年齢：70代前半
- 暮らし：息子と同居（息子はLINEを使えない）。近所に娘家族が住んでいる
- 仕事：新聞配達を週1回
- 趣味：ボランティア活動
- スマホ利用歴：3年目。ガラケーからスマホに乗り換えたことがきっかけ
- スマホ学習方法：①スマホ教室 ②娘 現在は基本操作は問題なくできる
- LINE利用歴：3年前から
- LINE習熟度：メッセージ送受信、通話、画像・動画のやり取り等はできる
- LINEでやり取りする相手：家族、友人など

ヒアリング結果：Aさんのオープンチャット体験記録

- 自ら興味のあるトピックをオープンチャットで探し、参加することができる
- 複数オープンチャットに参加。トークルームの様子を見て、自分にあう場所かを見極めている

ヒアリング結果：Aさんのオープンチャット体験まとめ

- オープンチャットを操作してもらったところ、
知りたい情報を得られることや匿名でやり取り出来る
気軽さに魅力を感じている
- オープンチャットを継続利用するためには操作方法や
ルールを教えてくれる第三者の存在が必要
- 特にトラブル時の対処方法がイメージできないことを
懸念していた

3.オープンチャットの実例調査

オープンチャット トークルーム調査概要

以下のステップでトークルームの観察・分析を実施

1. LINE公式おすすめからシニア向けまで幅広く参加しトークルームを観察
2. 各トークルーム共通の傾向やコミュニケーション観点で大切だと感じた要素を抽出
3. 2と並行してオープンチャットの運用・管理面で工夫していることも洗い出す

オープンチャット トークルーム実例調査

特に研究メンバーが居心地の良さを感じた2つのトークルームに絞って詳細分析を実施

トークルームであった素敵な体験

- 参加者同士の挨拶が活発
- 参加者に対して感謝を伝えている
- 管理者による緊急対応が早くしっかりしているので安心
- 新しい参加者に対してフレンドリーな声かけがある
- 返事をしてくれる参加者が多い
- 優しい言葉をかけ合っていた
- 参加者自らの経験談をシェアする等、互いに学び合いをしている

詳細分析を実施したトークルーム概要

シニア向けかつ居心地の良さを感じられる2つのトークルームについて詳細分析を実施

	雑談ルームA	雑談ルームB
年齢層	60-80代	20-70代
ルーム検索ワード	同年代、70代	田舎
管理人&サブ管理人 合計数	2	3
参加者数	40人 前後	300人 前後

実例調査で感じたこと・気づき

1

年齢に関わらず

多種多様な人たちと交流できる

実例調査で感じたこと・気づき

2

自分に合うトークルームに参加する

実例調査で感じたこと・気づき

3

コミュニティは時間帯で盛り上がる

実例調査で感じたこと・気づき

4

匿名だからこそ出来ること

実例調査で感じたこと・気づき

5

社会的孤立を防ぐトークルームの可能性

実例調査で感じたこと・気づき

6

ルーム管理がオープンチャットの要

実例調査で感じたこと・気づき

7

ルール設定と参加者のルール確認が重要

7つの気づきまとめ

オープンチャットは
シニア層にも誰かと繋がりを感じられる
居場所になり得ると実感



「ルーム管理者」の「運用・管理」が
最重要ポイント

—

4.まとめ

シニアが参加するトークルームを運営するためのコツ

1 明確で分かりやすいルールを設ける

2 運営メンバーを複数人募り、
役割分担をする

シニアが参加するトークルームを運営するためのコツ

3 参加者みんなで新しいメンバーを
歓迎する

4 ノートに自己紹介ページを設ける

シニアが参加するトークルームを運営するためのコツ

5 参加者もトークルームの
治安・環境を守る

6 積極的なコミュニケーションを推奨し
感謝する

オープンチャットがシニアの暮らしに浸透したら

Step1

オープンチャットを知り、
参加する

Step2

サポートを受けながら
トークに参加する

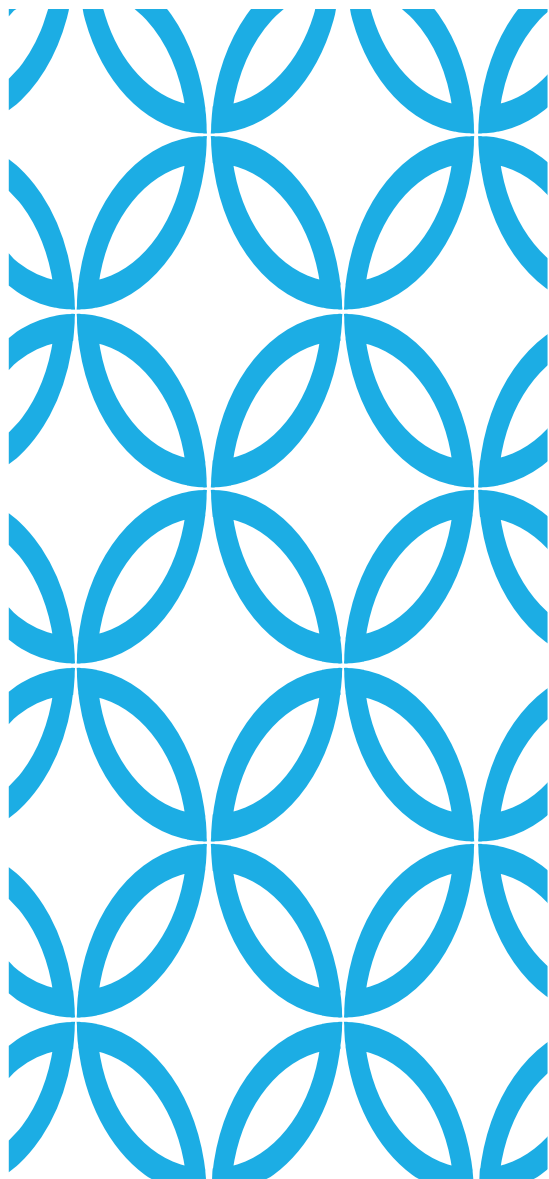
Step3

オープンチャットでのやり取
りに楽しさを感じ始める

Step4

新規参加者を歓迎し
積極的に投稿する

暮らしが
より楽しく



東京ホームタウン 大学院2022

まちの縁側 プロジェクト

2023.03.01

山口 亮/古賀 節彦/矢島 義宏/中谷 真二/大谷 桃子

プロジェクトの 目的

2022年7月から活動を始め
た墨田区押上の住み開き拠点
が裏路地にあって人通りがな
いため、街の人たちに認知さ
れない

認知度を向上するために、自
分たちから積極的に街に出て
いく活動を検討、実践する事
にした



プロジェクトの概要

フィールドワークの結果、曳舟駅近くの道路脇にある小さなスペースが借りられるので、ここを使って活動する事に決定

毎週土曜の午前、駅前に「ヤッチャバ」という青空市が立つので、この時間に合わせて活動を実施

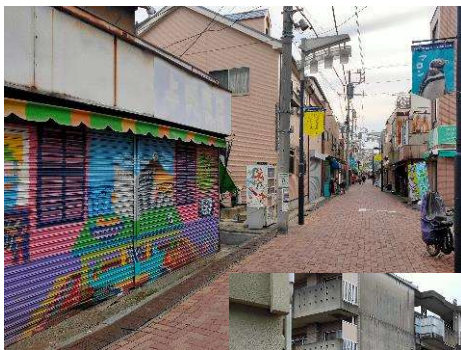


主な活動

- 2022.09.23 フィールドワーク（まち歩き）
- 2022.10.22 第一回活動：ボードゲーム
- 2022.11.26 第二回活動：フリーコーヒー・ココア
- 2023.01.07 シャボン玉勉強会
- 2023.01.14 第三回活動：フリーコーヒー・ココア
& シャボン玉
- 2023.02.12 シャボン玉フィールドワーク
- 2023.02.19 第四回活動：シャボン玉を飛ばす会

9/23 フィールドワーク（まち歩き）

街中には見えそうなスペースがいくつかあるが、誰に使用許可をもらうのか...？



10/22 第一回活動：ボードゲーム

道路脇のスペースにちゃぶ台を持って行き、
ボードゲームを始める
道行く人たちからは目を逸らされる



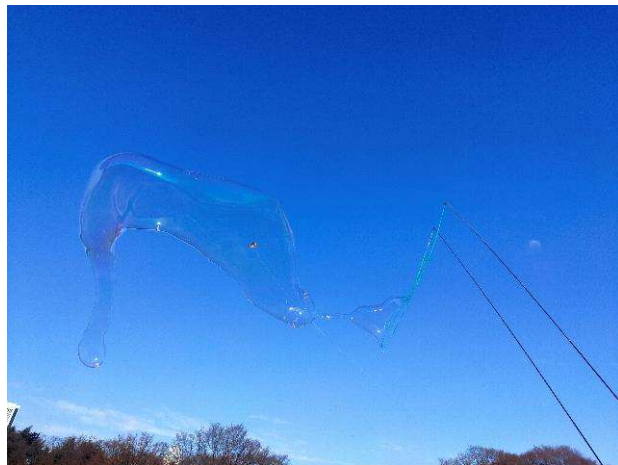
11/26 第二回活動：フリーコーヒー・ココア

寒空の下、温かいコーヒー・ココアを用意
前回の反省を込めて、色々と飾り付けしてみる



1/7 シャボン玉勉強会

代々木公園をホームグラウンドにしている泡師からシャボン玉についてレクチャーを受ける



1/14 第三回活動：フリーコーヒー・ココア & シャボン玉

前回の内容にシャボン玉を加えてみる
フェンスをはみ出していた草木は刈り取って、
見た目はだいぶ良くなった！？



共同研究者 の声

寒空の中、おじさんがチラシを配っても、中々受け取る人が居なかった

ココアや駄菓子につられて子供等数人は受け取ってくれた

通行人は自転車が多く、後は目を合わせない人も多いので、目をむかせるものが必要かもしれない

感覚的にはチラシを持って立っていると、我々には目は向かわないがチラシには目を向けてくれやすい印象

フリーココアどうですか？だと怪しさが拭えず、さりとして、寒いので飲みませんか？というのも同様に、怪しさを減らす&興味を持ってもらえる声かけ方の工夫が必要かもしれない

我々は敷地内で、通行人は道、と違う空間にいて横目に見られる存在だったが、公園とか同じ空間にいると違うのかもわからない。ただ適度な距離感が必要

ボードゲームやシャボン玉は、自分たちの楽しみとして、何かをやっている感はありましたが、通行人に対する訴求力はなく、公園のような場所でないとなかなか立ち止まって見てもらえるような状況にはならず、うまく巻き込めなかった

クローズドな個人の集まりに見えるので、幟（のぼり）とか横断幕などでイベント感を出したい

課題の整理

話のキッカケをつくるのが難しい

自転車で通り過ぎる人の足を止めるのは難しい

→時間に余裕がないのかも？

何をやっているのか、何の目的でやっているのか、なかなか理解してもらえない（フリーコーヒーと言っても理解してもらえない）

知らないオジサンには、みんな近付かない

しかし...FACEBOOKの反応は良い

Facebookでは毎回100以上のリアクションがつく



2/12 シャボン玉 フィールドワーク

メンバー全員のスケジュールを合わせるのが難しかったので、2週に分けて活動を行った

1週目は、翌週の本番に向けたフィールドワークのつもりで

まち歩きしつつ子供の多い公園を探す
→シャボン玉を飛ばして反応を見る

の流れで実施



2/12 シャボン玉フィールドワーク

結果

同じようなサイズの公園をいくつか回ったが、子どもの数には大きな差があった
徒歩圏内にある2つの公園が、子どもが多く、広さ的にも、シャボン玉を飛ばしやすい事が分かった

しかし、片方の公園は、地面が全面、コンクリートで舗装されており、シャボン液が染み込まずに残ってしまう...

→子どもが走ると滑って転んでしまう

・シャボン液が溜まった場所では、できるだけ走らせない運用が必要

・そのまま帰る事はできないので、地面の清掃について要検討

2/12 シャボン玉フィールドワーク

シャボン玉を始めると、何もしなくても、勝手に子どもたちが集まってきて、シャボン玉を割ったり、自分もつくりたい！と言ってくる

大人（保護者）も警戒していない様子...今までの活動と、全然、反応が違う！



2/12 シャボン玉を 飛ばす会

今回の活動で初めて、イベントとして
告知（Facebookのみ）

目的：地域の中で、活動する「仲間」
を増やす



2/19 シャボン玉を飛ばす会

参加者

大人が集まる想定をしていたが、単独で参加した大人（オジサン）は2人だけ

他は、夫婦1組、母子4組という構成

子どもは未就学児～小学校2年生ぐらいまで

小学5年生と3年生の姉弟（姉妹かも？）がお父さんと参加予定だったが、お姉ちゃんの習い事のスケジュール変更があって、急遽キャンセルになってしまった

→年齢が上がるにつれて、子どもも気軽に遊べなくなる？

2/19 シャボン玉を飛ばす会

活動中

最初の公園は40～50分ぐらいで終了し、次の公園に移動

参加者は単独参加の2人を除き、最初の公園の活動が終わったところで離脱

子どもたちの集中力が続くのは、30～40分くらい
2時間の活動にフルに参加するのは難しい
→ 1時間ぐらいがちょうど良いかも？

しかし、2つめの公園では、1時間以上、ずっとシャボン玉づくりに釘付けの子が2～3名いた

また、入れ替わりで参加してくる（後から公園にやって来る）子どもも結構いる

結果、活動時間が30分以上延びてしまった

2/19 シャボン玉を飛ばす会



2/19 シャボン玉を飛ばす会

結果

単独参加の2人とは、押上の拠点に帰って軽い懇親会を行った子連れの参加とそれ以外で、この場に求めるものや行動が大きく変わりそう

フィールドワーク同様、子どもは勝手に集まってくる
特に今回は、最初からシャボン玉を飛ばす側に子どもがいたので、他の子どもも自然とシャボン玉を飛ばす側に回っていた

大人は釣り竿を使った道具を使っていたが、大人と同じ道具を使いたがる子どもも割と多かった

子どもも一緒にやったためか、用意していたシャボン液（前回の残り、3ℓぐらい）は最初の公園で使い切り、途中でつくり直した

今後の展開

シャボン玉は子ども受けが良い

→シャボン玉クラブをつくり、地域のオジサンなど仲間を増やしていく

公園など場所を変えて実施してみる

持ち寄り屋台など、仲間をつくりながら広げていける活動

縁台、屋台づくりなどDIYしながらリソースをつくっていくワークショップ

Facebookで、こちらをフォローしてください！
<https://www.facebook.com/100089228016855>



この後の展開が気になる方は...

参考) シャボン玉の準備

洗面器

シャボン液を入れる

それなりに深く、間口の広いものが良い

道具

釣り竿 (同じくらいの長さの物を2本セットで使う)

伸縮タイプの指示棒 (100円ショップで購入)

チェーン (結束バンドでつないで輪っかをつくる)

シャボン液

食器用洗剤 (キュキュット) 1 : 選択のり (PVA配合) 1 : 水 8

1時間で5ℓぐらい

タオル、ウェットティッシュなど (手や道具がベトベトになるので)



参考) シャボン玉の道具

チェーンの組み方で「大玉」「連玉」「大連玉」の3種類の泡が作れる



小さい子どもには、
うちわの骨組みや
リングなどの方が
使いやすい

